

---

# 東方吸血鬼

アタナシア=Fate

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方吸血神

### 【Nコード】

N7511V

### 【作者名】

アタナシア「Fate

### 【あらすじ】

どこかの世界に彼はいた、彼は世界を嫌っていた、だから新しい世界を作りそこに引きこもった、彼は何を思いどう過ごすのかそれは神のみぞ知る。



怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ  
怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ  
怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ  
怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ怖イ

．．．私はいつたい．．．．．

誰なんだろう．．．？

．．．．

．．．．誰か．．．．

．．．．教えてください．．．．

そのにですう

ここに生まれてから何十億年もたった・・・

私はいろんなことを思い出した

墮天したこと

友人といえるもの以外をすべて破壊したこと

適当に世界を作ってそこで

そこに閉じこもったこと

自分の名前

ある程度の知識

でもそれ以外は思い出せない

つい最近人間が生まれた

それと同時に妖怪も生まれた

私はこれからそれを見に行ってみようと思つ。

???

妖怪を舐めてた

私は弓の腕がいいから妖怪なんてどうにでもなると思ってた  
でも妖怪の集団に襲われるとは思ってもいなかった

「イタッ」

私は石につまずいてしまった

妖怪が近づいてくる

嗚呼・・・私はこの妖怪に食べられるんだ・・・

嫌だ死にたくない死にたくない死にたくない！

しかし運命は残酷でそんなことも構わず妖怪は近づいてくる

あと一メートルまで近付いた時

奇跡は起こった

「ズダンツ・・・カチャ・・・ズダンツ・・・カチャ・・・ズダンツ・・・」

ものすごい爆音が鳴った直後周りにいた妖怪はすべて死滅していた

「大丈夫ですかあ？」

私はその人に助けられた

そのさんですう

主人公

人が襲われてますわね

弓で応戦してますがあの数ではどうにもならないでしょう

・・・そうだ

あの人を助けて最近の情報を教えてもらいましょう

よければ迷子だって言えばその人の村まで連れてってもらえますし

幼児体型なのが幸いです

さてどうやって殺しましょうか

・・・SVDドラグノフでいいですかね

「クリエイトギミック  
創造技巧」

私は創造した狙撃銃を手にし妖怪相手に「ズガンツ」打ち抜いた

ズガンツ・・・カチャツ・・・ズガンツ・・・カチャツ・・・スガンツ・・・  
これを何回も繰り返した

・・・ふう相手は全滅したみたいですね



さて相手のところに行きますか……

「大丈夫ですかあ？」

???

「え？…あ……」

私はなんて反応すればわからなかった

「ありがとうございます」

とりあえず例を言っておいたが気を付けなければいけない  
この女の子も妖怪という可能性があるのだから

「あ……どうもですう」

「あのひとついいですかあ？」

なんだろう？

「あの私……迷子になりましたよければあなたの村まで連れて行っ

てもらえま・・・？」

嘘だ！絶対私たちの都市に侵入しようとしてる妖怪に違いないう  
思うと私はすぐ彼女に弓を向けた

「あのお？これはどうゆうことですかあ？」

「黙れ妖怪！貴様がわが都市に侵入しようとしていることは丸わか  
りだ！」

わかってるこんなことしてもすぐ殺されることくらい、しかし私た  
ちの都市の武器を持つてるってことは  
ほかの人の武器を奪った証拠だ

主人公

あるえ？どうしてこうなったのでしょうか？

「あのお？何か誤解してませんかあ？」

「黙れ妖怪」

ありやりやこれは完全に勘違いしてますねえ

「じゃあ私が妖怪という証拠はなんですかあ？」

「その手に持つてる銃が証拠だどうせ都の民を殺して奪ったのでし  
よ」

「それに妖力だっ……て？」

「なんで？妖力がないの？」

「だって妖怪じゃないですし……」

「じゃあその銃は？」

「私が能力で作りましたあ」

「……まあいいわ妖怪じゃないなら案内してあげる  
ただあとで能力他もろもろ聞かせてもらうからね」

「あのお？「何？」あなたの名前はなんですかあ？」

「私の名前は八意××……永琳と呼ぶといいわあなたは？」

「雷電・F・C・アタナシアっていいいますう気軽にアタナシアかお  
兄ちゃんって呼んでくださると助かりますう……」

「え？あなたっつて女の子じゃ「何言ってるんですかあ？私は男の子  
ですう」……」

「……^^」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7511v/>

---

東方吸血神

2011年10月7日11時00分発行